

社会福祉法人 東京都社会福祉事業団
令和7年度臨時評議員会議事録

1 招集年月日

社会福祉法第45条の9第10項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第183条に基づき招集の手続を省略

2 開催日時

令和8年3月30日（月曜日）午後2時00分から午後2時48分まで

3 開催場所

社会福祉法人東京都社会福祉事業団事務局第一会議室

※Web会議システムによる出席者は、自宅・職場等の各会場から出席

4 出席者（※Web会議システムによる外部会場からの出席者）

(1) 評議員総数10名

出席評議員10名

評議員	横堀昌子（※）	評議員	矢嶋里絵（※）
評議員	湯浅克己（※）	評議員	小池朗
評議員	宮田浩明	評議員	加藤英二（※）
評議員	星野政人	評議員	山崎郁子
評議員	天野哲史（※）	評議員	梶野京子（※）

(2) 出席理事及び監事

理事長	雲田孝司	業務執行理事	藤井麻里子
監事	石村光代（※）	監事	仁田坂和夫（※）

5 議長

評議員 小池朗

6 議事録作成者

評議員 横堀昌子 評議員 天野哲史

7 議題

(1) 報告事項

- ア 社会福祉法人東京都社会福祉事業団定款細則等の一部改正について
- イ 令和8年度事業計画について
- ウ 令和8年度予算について

※ 以下の「8 議事の経過の要領及びその結果」における発言者は「出席者」と表記している。(理事長、業務執行理事及び監事の職責としての発言をした場合の監事を除く。)

8 議事の経過の要領及びその結果

(1) 報告事項

報告事項について、藤井業務執行理事及び事務局から、「社会福祉法人東京都社会福祉事業団定款細則等の一部改正」、「令和8年度事業計画」及び「令和8年度予算」について、説明を行った。

その後、議長が質問・意見を募ったところ、次の質問・意見があった。

<予算について>

- 監事から、令和7年度の当初予算と令和8年度の予算を比較した説明があったが、7年度は第5次まで補正予算があり、人件費が大幅にアップするなど、予算額が実際は増えている。評議員に詳しく理解いただくために、説明資料等で7年度最終予算と8年度予算の差が確認できると、より望ましいとの意見があった。

<事業計画について>

- 出席者から、外国人材について、東京都知事から生活環境及び教育環境を事業所等で整備することが必要という議会での発言があった。事業団として、何か力を入れていくものはあるかとの質問があり、藤井業務執行理事から、検討を来年度から始める状況であり、頂いた意見を参考にしながら進めていきたいとの回答があった。

- 出席者から、七生福祉園の就労選択支援について、新たな制度ではあるが、成人の事業所で、入所施設を出てグループホーム等で地域移行する際、就労先を探して移行した利用者はいるか、また今後の予測があったら伺いたいとの質問があり、藤井業務執行理事から、七生福祉園の成人の入所者で、地域移行で就労した実績はないが、既に地域の方を対象として、就労移行支援などの事業を実施しており、その経験を生かしながら、新事業に取り組んでいくとの回答があった。

また、出席者から、七生福祉園から在籍法人施設で受け入れた利用者が、就労移行支援事業を利用して、その後就職したケースがあるため、潜在的にニーズがあるのではないかとの意見があった。

それに対し、藤井業務執行理事から、七生福祉園の児童部門では地域移行のケースもあるとの補足説明があった。

さらに、出席者から、新しい制度であるため、先行して取り組んだ法人が成功事例や好事例を積み上げていくと、制度としても更に良くなるとの意見があった。

- 出席者から、児童養護施設の取組について、家庭的養護の推進として、グループホームの設置の推進と再開の報告があったが、一般的にグルー

プホームは、職員の力量が必要で、本体施設よりも職員数が必要になることから、本体施設からのバックアップ機能やサポート機能もより充実させていく必要があるとの意見があった。また、職員によっては、抱え込んでしまったり不適切な対応が起きるなど難しさが予測されるため、グループホームの推進に当たり、本体施設からのバックアップやサポート機能など工夫した点はあるかとの質問があり、藤井業務執行理事から、本体施設などのバックアップ体制については、既の実施しているグループホームもあることから、それも踏まえ検討している。今年度は、児童養護施設の職員を増やすなど職員体制の充実を図っており、グループホームの支援も積極的に行っていくことを考えているとの回答があった。

以上、議長は議事がすべて終了した旨を告げ、午後2時48分に閉会した。